

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、
<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/vine_user（ブログ『独学 Linux』http://blog.livedoor.jp/vine_user/）
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.04」
（<http://ubuntu.asciimw.jp/>） 2010 年 5 月 31 日発行

Compizで10.04をもっとカッコよく!!

3Dデスクトップを完全マスター

3D Desktop
Perfect
Master

文/vine_user (ブログ「独学Linux」)

多彩な効果と機能を3Dデスクトップで!

デスクトップの印象を劇的に変えるCompiz

3Dデスクトップを実現させたCompiz。Ubuntuユーザーであれば誰もが知っているだろう。その強烈なインパクトは、難しいコマンドがわからなければ使えない、見た目が地味などというデスクトップLinuxのイメージを劇的に変えた。現時点では、一時のように日々新たな効果が追加される状況ではないが、Ubuntuの普及に大きく貢献したことは誰もが認めるところではないだろうか? 今回は、さまざまなプラグインの設定方法を画像とともにまとめてみよう。

Linuxでは、複数のデスクトップ画面(ワークスペース)を利用できるが、これは特に新しい機能

ではなく、ずっと以前から利用されてきたものだ。Compizでは、デスクトップ・キューブや展開と

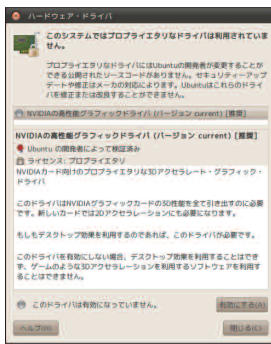
呼ばれるプラグインを利用して、このワークスペースを3Dの立方体や球体の側面に表示させて切り替えたり、Mac OS Xのように一覧表示させて選択したりすることができるようになった。デスクトップの下部パネルにある小さな切り替えアプレットとは雲泥の違いだ。

Ubuntuでは、利用可能なグラフィック環境であればCompizがデフォルトで有効になっているはずだ。パネルにうつすらと影がつき、上部パネルのFirefoxのアプレットをクリックすると、一瞬拡大されたアイコンが表示される。有効になっているかどうかをより確実に確認するには、「システ

ム」・「設定」・「外観の設定」で、「視覚効果」のタブで「通常効果」にチェックが入っているかどうかをみればよい。また、「追加効果」にチェックを入れてみよう。これでウィンドウが揺らめくようになる。さらに多くの効果を利用するためには、CCSMあるいは簡易版CCSMという設定プログラムを導入しておく必要がある。これらはソフトウェア・センターを使って「CCSM」で検索すれば簡単に導入できるはずだ。一方、Compizはどんなグラフィック環境でも使えるというわけではない。インテル製や一部のATI (AMD)製のチップではそのまま利用できるものの、NVIDIA製チップでは、専用のグラフィックドライバが必要だ。

NVIDIAドライバの導入

■ [システム] - [システム管理] - [ハードウェア・ドライバ] で起動。「有効にする」をクリックしてドライバを導入。

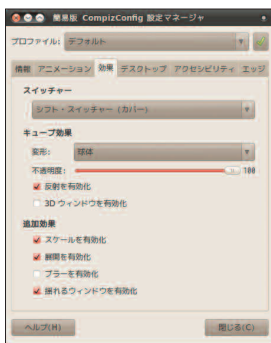


CompizConfig 設定マネージャ

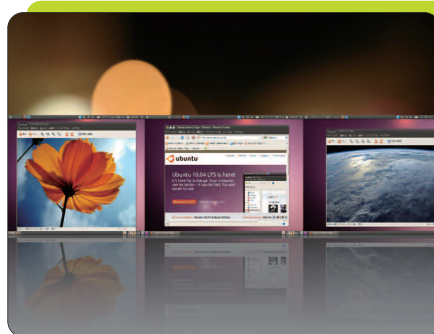


簡易版CCSM

■簡易版CompizConfig 設定マネージャ。細かい設定はできないが、プラグインを簡単に切り替えられる。CCSMはUbuntuソフトウェアセンターから導入できる。



デスクトップ キューブ



【使用するプラグイン】

- デスクトップ・キューブ
- キューブの回転
- キューブの反射と変形

ワークスペースを サイコロのように表示！

「デスクトップ・キューブ」と「キューブの回転」を有効にする。デフォルトで有効な「デスクトップの壁」とキー操作が重複しているため、そちらは無効にしておく。「Ctrl」+「Alt」+「左クリック」でデスクトップが回転する。キューブの背景画像を表示するには、「デスクトップ・キューブ」のスカイドームという設定項目を有効にし、画像を選択する。また、「キューブの反射と変形」を有効にすると、鏡面反射で表示されてよりクールな印象になる。この反射を無効にするには、反射タブの有効化のチェックをはずしておこう。右図は横方向に展開したところ。

展開



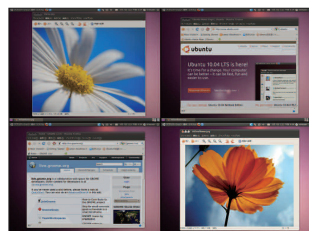
【使用するプラグイン】

- 展開
- 一般オプション

デスクトップを クールに切り替え！

右に示した曲面の表示は「展開」というプラグインを用いた効果だ。「Windows」キーと「e」キーの同時押しで実行する。展開の設定の「割り当て」で展開のエッジを設定すればマウスの移動だけで実行できるようになる。

実用的な配置で表示



■一般オプションで、デスクトップサイズを「2×2」、展開の設定で「外観」-「Reflection」-「反射」を無効にする。

ウィンドウ 選択



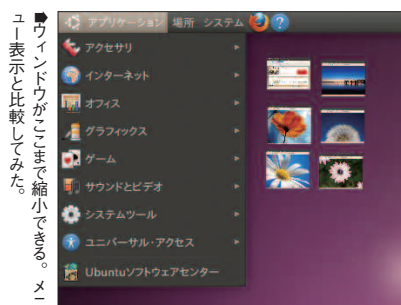
【使用するプラグイン】

- スケール
- シフト・スイッチャー
- リング・スイッチャー
- ウィンドウのグループ化とタブ化

ウィンドウを 多様な機能で選択！

Compiz Fusion には、多様なウィンドウ選択の効果が用意されている。右の画面は、デフォルトで有効になっている「スケール」。すべてのウィンドウの中から瞬時に目的のウィンドウを選択できる。デフォルトでは「Windows」+「a」キーで起動する。すばやく起動させたいときは、設定画面の「割り当て」で、ディスプレイ型アイコンの「ウィンドウピッカー起動」の部分でエッジを有効にすることもできる。「シフト・スイッチャー」は、カバー、フリップというどこかで見たことのある(?)ウィンドウ選択効果だ。

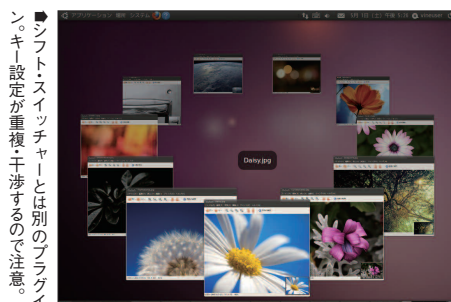
シェルフ



■ウィンドウがここまで縮小できる。メニュー表示と比較してみた。

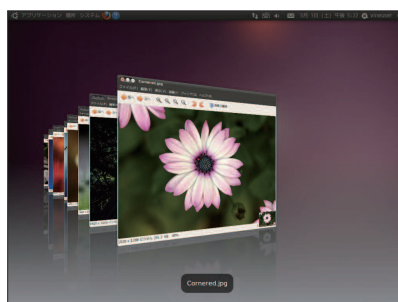
「リング・スイッチャー」は、ウィンドウを3D回転させて選択でき、見た目にも楽しい機能だ。シフト・スイッチャーとは別のプラグインとなっているが、起動時のキーバインディングが共通なので注意しよう。さらに、「ウィンドウのグループ化とタブ化」を利用すると、選択した複数のウィンドウを一つのグループとして移動できるようになる。また、タブ化を有効にすれば、ウィンドウのサムネイルが表示されるようになるので、これを他のウィンドウのサムネイル表示の部分にドラッグすれば、ウィンドウが重なり合い、サムネイルのクリックで選択できるようになる。この際、ウィンドウは3Dで回転して切り替わる。「シェルフ」は、ウィンドウを極端に縮小することで作業スペースを確保する機能をもっている。「Windows」+「Alt」+「マウスホイールの回転」で、ウィンドウが縮小される。元の大きさに戻すには、「Windows」+「p」キーを押せばいい。

リング・スイッチャー



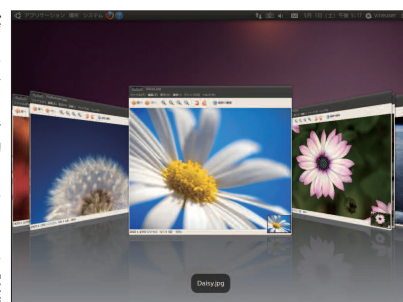
■シフト・スイッチャーとは別のプラグイン。キー設定が重複・干渉するので注意。

シフト・スイッチャー(フリップ)



■設定画面の「外観」-「スイッチャー形式」で「フリップ」を選択する。

シフト・スイッチャー(カバー)



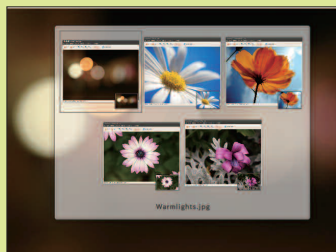
■デフォルトで有効になっており、「Windows」+「Tab」キーで起動する。

Ubuntu 10.04 での変更点は？

以前のバージョンでは、多くのプラグインで「Ctrl」+「Alt」キーを組み合わせた設定がされており、キーバインディングがGNOMEのショートカットキーと重複していた。

今回は、デフォルトの設定にWindowsキーを組み合わせてGNOMEとの重複を回避させている。また、ウィンドウのスナップの強さを弱めたり、デフォルトのワークスペースの数を4面にするなど、ユーザの使い勝手を向上させる変更も行われた。さらに、「不動態アプリケーション・スイッチャー」では、これまですばやく押していたが、この表示速度をほんの少し(0.12秒)遅延させることで表示させないように工夫された。これらは「OneHundredPaperCuts」による成果だ。ちなみに、Compizの次期バージョン0.9.0はプログラム言語がC++へ移行されており、対応が難しいため、搭載は見送られている。

サムネールの表示



■不動態アプリケーション・スイッチャーの[Tab]+[Alt]キーでのサムネール表示。

追加効果

【使用するプラグイン】

- マウス表示
- 水効果
- 炎の描画 など

カーソルを見つけやすくなるマウス表示などのほかにも、Compizには、デスクトップに水面の波を表示したり炎でお絵描きしたりといった一見すると無駄な機能も

含まれている。大半は、Compizから分離していたBerylプロジェクト(現在は統合されている)の成果物だが、使い方によっては役立つこともあるし、こんなことができるのか!といったインパクトを与えるのにはもってこいの機能だ。水効果には、デスクトップに雨を降らせ、さらにワイパーをかけるという凝った設定も施されている。炎の描画では、炎の色もアレンジできる。親しい人のデスクトップをデコレーションして、驚かせてみてはいかがだろうか?

魔法のランプ



■ウィンドウが下部パネルに吸い込まれるように揺らめきながら収納される。

飛行機

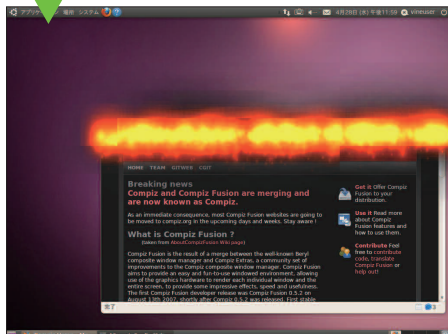


■ウィンドウが折りたたまれて紙飛行機のように飛び去っていく。飛行機の航続距離も変更できる。

ウィンドウを閉じたり開いたり最小化する際に、さまざまなアニメーション動作をさせることができる。非力なグラフィック環境では負荷が大きすぎる場合もあるの

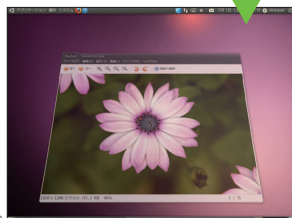
で注意が必要だ。アニメーションを表示させるには、「アニメーション」プラグインを有効にして、設定画面の「開く時の効果・閉じる時の効果・最小化時の効果」の画面で選択する。描画速度などは「エフェクト設定」のタブで行う。なお、飛行機・炎・爆発などの比較的負荷の大きいアニメーションは「アニメーションのアドオン」という別のプラグインを有効にしないと、選択候補に表示されない。設定画面の場所も異なるので注意しよう。

炎



■ウィンドウの最小化などの際に、ウィンドウが燃え上がる。炎の粒子の数や色なども調整できる。

滑空



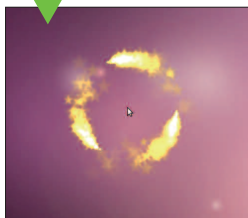
■ウィンドウが回転しながら遠ざかって消え去る。回転速度や遠ざかる距離を変更することも可能。

揺れるウィンドウ



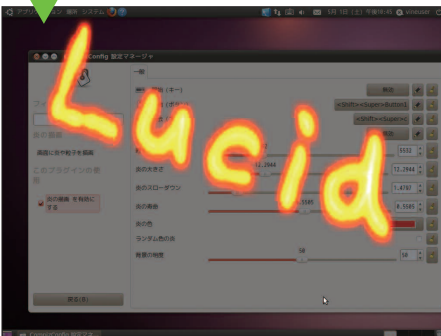
■ウィンドウが揺れるだけでなく、最大化した際にウィンドウの裏側をチラ見できるのは便利だ。

マウス表示



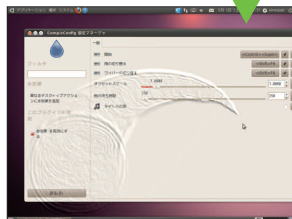
■マウスのまわりに無数の星マークが回転する。回転速度や星の数や色も調整できる。

炎の描画



■マウスポインタに沿って炎を描くことができる。[Shift] + [Windows] キー+左クリックで起動。

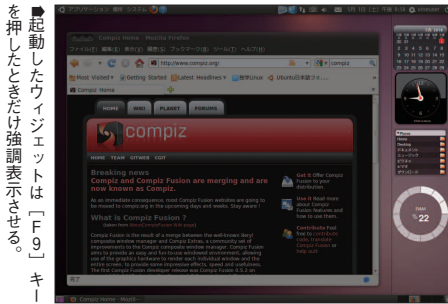
水効果



■マウスポインタに沿って水面の波が描かれる。[Ctrl] + [Windows] キー+左クリックで起動。

3Dデスクトップを完全マスター

ウィジェット・レイヤ



■起動したウィジェットは「F9」キーを押したときだけ強調表示させる。

また「EasyStroke」というマウスジェスチャー(マウス操作でアプリケーションを起動させる)用のプログラムには、中クリックで「炎の描画」を起動し、その形状で任意のプログラムを実行させる機能がある。今後もう少しした連携プログラムの登場を期待したい。

Screenletsは、ソフトウェア・センターからインストールできる。メニューから起動させ、パネルの

効果と連動させることができるアプリケーションもある。そのひとつが「Screenlets」というウィジェット表示用のプログラムで、ウィジェット・レイヤというCompizプラグインと併用すればMac OS Xのダッシュボード相当の機能を実現することが可能になる。

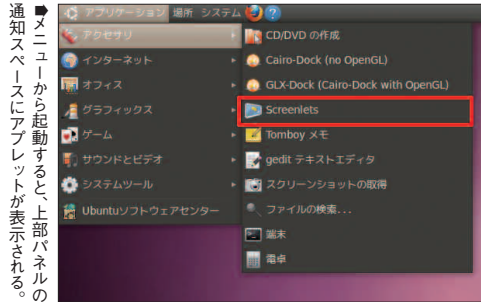
ウィジェット表示で使い勝手を向上!!

Screenlets マネージャ



■ここからさまざまなウィジェットを追加できる。

Screenlets の起動



■メニューから起動すると、上部パネルの通知スペースにアプレットが表示される。

通知領域に現れる水色のアプレットをクリックすれば、Screenletsマネージャが表示される。あとは好みのウィジェットを選択して「スタート/停止」すればいい。

ウィジェット機能を使うには、ダッシュボード機能を有効にして、ウィジェットのメニューで「ウィンドウ」・「ウィジェット」にチェックを入れておく。デフォルトではF9キーで表示・非表示が切り替えられる。

通常は非表示に



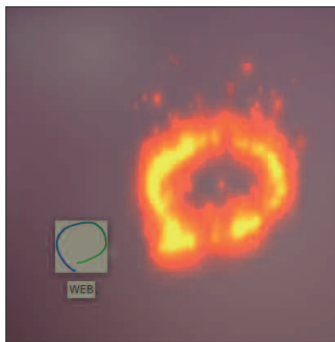
■右クリックで「ウィンドウ」・「ウィジェット」にチェックを入れると通常は非表示に。

ウィジェット・レイヤ



■ダッシュボード機能はF9キーでオン・オフできる。

Screenletsマネージャの下部にある「Get more screenlets」ボタンをクリックすると、YouTubeの動画再生やブラウザ表示に対応したものなど非常に多くのウィジェットを入手できる。



炎の描画でマウスジェスチャ

■マウスの中ボタンでドラッグすると、炎の描画が実行され、指定された図形を描けば特定のプログラムが起動する。

EasyStrokeは、マウスジェスチャーで特定のアプリケーションを起動させるためのプログラム。設定画面でアプリと実行時に使う図形を登録しておく、マウスの動きの違いによって複数のアプリの起動を制御できる。左の図では、マウスで丸を描くと、炎で表示され、ウェブブラウザが起動する。

Ubuntu 10.04のリポジトリに含まれる最新版では、注釈線・炎の描画・水効果と組み合わせる使用できるようになっている。ちなみに、Compizが使えない環境でもマウスの動きだけでアプリを起動させることができるので、導入しておいて損はない。「アプリケ



マウスジェスチャの設定

■[設定] - [ジェスチャ・ボタン]で炎の描画を選択する。

成功すると図形が表示される。

「EasyStroke」は、マウスジェスチャーで特定のアプリケーションを起動させるためのプログラム。設定画面でアプリと実行時に使う図形を登録しておく、マウスの動きの違いによって複数のアプリの起動を制御できる。左の図では、マウスで丸を描くと、炎で表示され、ウェブブラウザが起動する。

EasyStrokeと炎の描画の組み合わせ

「EasyStroke」は、マウスジェスチャーで特定のアプリケーションを起動させるためのプログラム。設定画面でアプリと実行時に使う図形を登録しておく、マウスの動きの違いによって複数のアプリの起動を制御できる。左の図では、マウスで丸を描くと、炎で表示され、ウェブブラウザが起動する。

3D Desktop Perfect Master
Compiz Fusionの運動スピンと印象的ドット